

記入日 2024 年 11 月 20 日

一般社団法人日本薬学生連盟 2025 年度執行部立候補申請書

立候補者氏名	川本恵里
立候補する役職	地域連携委員長
大学/学部/学科	東京薬科大学/薬学部
学年	3 年
所属	地域連携委員会、国際渉外部、交換留学委員会
日本薬学生連盟での活動経歴	2023 年 5 月 地域連携委員会所属 10 月 薬学生ジャンボリースタッフ 12 月 国際渉外部所属 2024 年 4 月 新歓(関東)企画長 5 月 交換留学委員会所属 9 月 「あなたのなりたいがきつとみつかる ～製薬企業ではたらくということ～」スタッフ 10 月 薬学生ジャンボリースタッフ
立候補動機	前任者の推薦により、立候補させていただきました。また、地域連携委員会は、日本薬学生連盟の 3 大イベントである新歓や薬学生ジャンボリーの企画・運営を行っており、他の薬学生と交流ができる場があることに魅力を感じます。これらのイベントを活性化し、地域内同士の交流を深めるだけでなく、全国の薬学生とつながりを強くしていきたい所存です。
問題点と改善案	【地域連携委員会の問題点と改善案】 ・年間で行っている企画が少ない 地域連携委員会では、主に日本薬学生連盟の 3 大イベントの企画、運営を行っていますが、年間を通して企画数が少ないと感じています。地域連携委員会の強みは、自ら主体的に企画を考え、運営を行うことができることです。その一例として、2024 年 9 月には「あなたのなりたいがきつとみつかる～製薬企業ではたらくということ～」で、様々な製薬企業の職種の方をお招きし、ご講演をいただくイベントを開催しました。このイベントでは実際にスタッフがやってみたい企画を提案したことにより、開催することができました。このイベントを通して、自分で一から企画を考え、実行できるという委員会の強みを最大限に利用していくべきだと考えています。今後は既存の企画はもとより、製薬企業だけでなく、化粧品会社や病院薬剤師など、外部講師の方を招いた講演会の開催を増やしていきたいと思ひます。委員会内で講演をいただきたい職種をアンケート調査し、可能な限りスタッフと様々な講演会を企画し、実行できるようサポートしていきたいと考えています。 ・低学年のスタッフが少ない 現在、地域連携委員会での低学年のスタッフを確保できていないことが現状です。そのため、低学年の方が参加しやすい内容の講演会を行うことや、他の部署との合同企画を視野に入れた企画も検討しています。他部署の方と企画を開催することで、他の部署の方に、自分の挑戦したいことを企画として実行できるという地域連携委員会の魅力を発信し、新規スタッフの獲得を目指します。また、日本薬学生連盟の会員数は減少傾向にあるため、企画を通して低学年の会員を獲得することで、日本薬学生連盟全体の会員数の増加につなげていきたいと考えています。さらには、地域連携委員会では獲得した低学年のスタッフを中心に、企画長など挑戦できる機会を提供し、低学年からでも企画を運営する力を養っていきたく考えています。 ・地域連携委員会内での交流できる場が少ない 現在の地域連携委員会では、全国各地に渡りイベントが開催されていることが特徴ですが、各地域内での交流は深まる一方、他の地域の方と交流する機会が少ない点に問題があると考えます。日本薬学生連盟には、全国の薬学生とつながりを持つという魅力があるにもかかわらず、地域内のみでの交流にとどまってしまうのは、宝の持ち腐れだと感じます。そのため、普段行われているミーティングだけでなく、地域連携委員会では主にオンラインの交流会や勉強会などを開催したいと考えています。交流会では全国各地のスタッフと交流する場を提供し、勉強会では他のスタッフと切磋琢磨して勉強する機会を作りたいと考えています。

活動計画	<p>【通年】 4 月 新歓 10 月 薬学生ジャンボリー 3 月 年会</p> <p>通年イベントの実施に加え、病院薬剤師の方のお話を聞くことのできる講演会や、委員会内での交流を深めるための勉強会または交流会を開催する。</p>
所信	<p>私は、日本薬学生連盟を通して、様々なイベントに参加し、スタッフとして活動してきました。薬学部という閉鎖された環境にいる中で、この団体を通して、関東地域のみならず、普段出会うことのできない他の地域の方とも交流することができ、自分の価値観を広げることができていると感じます。地域連携委員会を通して、薬学生とつながるきっかけを作る場所をこれからも提供していきたいと考えています。</p> <p>今回私が立候補するきっかけとなったのが、新歓(関東)で初めて企画長を務めさせていただいたことです。企画長という経験を経て、この企画が提供者側と参加者側にどのような価値が生まれるのか、相手の立場になって考えることの大切さを学びました。また、実際に実現可能なのかなどを考えるだけでなく、企画が終了後も反省点を見つけ、次のイベントに向けてどう生かしていくかなどを考えて行動していくことの大切さを知ることができました。地域連携委員長という経験を通して、部員をサポートしてだけでなく、責任をもって部員を引っ張っていくことで、自分の考え方を広げ、自身の成長につなげたいと思い、立候補させていただきました。</p> <p>私が地域連携委員長になった暁には、部員一人ひとりに企画長などに挑戦する機会を積極的に提供したいと考えています。企画長を経験してもらうことで、自分を中心に一から企画を立ち上げ、運営する力を養うことで、自信を得ることにつながると 생각합니다。部員のやってみたい企画を積極的に取り入れ、それぞれの希望が実現できるようサポートし、実行に移す環境を整えていきたいと思っています。</p> <p>最後に、地域連携委員会、そして日本薬学生連盟の発展のため、薬学生の架け橋となれるよう、より一層精進してまいります。</p>